霊のゆくへ
うつし方の悩み

全

121.25
M965t

国立国会図書館　タイトル『霊のゆくへ』 請求記号 121.25-M965t

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『霊のゆくへ』 請求記号 121.25-M965t
ガラス使用

帝國圖書館藏

霊のゆくへ

村田春海述

帝國圖書館藏

かくて本居宣長いそぢとなりたまへれて
をちこちの方こめていとあはれとなりぬ大和
なる面よりて於ようさそふこゝろし向ひまねく尾も
う殺とりて心ぼそきのこそ世へうるうけゆく
うとうなるものくと雲の方のえまよつるゆゝよるもの
めきてるがいてきくしきいらづちいうるふそて
何人のかくいらめうかまへを廣送りるうんと
近くようまてこれゆるとうまよの黄泉

帝國圖書館藏

國立國會圖書館
24. 9. 5

25397

国立国会図書館　タイトル『霊のゆくへ』　請求記号 121.25-M965t
ガラス使用

大王の宮とゝ殿とゝあるを　もの〳〵きいてゝ（驚）
どもをきゝて　鬼のおそれ　きゝ面なる
者をつゝてをゆるがひとり宣長を見て
いとでなをりつるよとゝいゝやをゝかいつゝゝる
ひとゝり物をとゝいゝとゝがれ　あるゝまゝく（早）
おほまどゝろ（オホマドコロ）へとゝいつゝるあゝゝ　なる
ゝてかゝるめんとゝいひ　ひとけめものをつゝく
しきゝの　ゝ　ゝんとゝいゆゝ　ゝゝをゝ　かとてゝも
のひるゝゝゝ　ゝ鬼のゝ　ゝる　ゝゝゝ　ゝゝゝ
ゝゝのゝたゝ　にありのゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ（丹塗）

うめきいてゝゝいまゝゝ（泣）　ゝゝせゝの　ゝゝ　ゝゝ（頭身）
ゝゝのゝ　ゝゝをゝゝて　佛のゝゝゝゝゝゝ（無礙）
三の宮とゝあゝゝゝも　ゝゝゝゝゝゝ（在經）　むくい（報）
いゝゝゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ（剃）（逆剃）（辛）
あゝ　ゝの室　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ（念台）
ゝゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ（早）
ゝゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ（代）
ゝゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ（上座）

酸醤

そして赤ぐちのあきまるとこ
ろへ
ぜ足をなげひろげられ
やくそくをしてもつるようにと
ごとたびをつきくいちもめ
官　拜　辰
れるつくもるくの罪人
罪をあしてたくのとぐるさぶ
制
宣長ふる
ようきくよ　たぐるるくれる
つるくれておそろし
とらくくしぐるくくるくきえんこせていうるるよ
ようれるみるとこひをきよ
吹巾
かくくらついてくて
さてで宣長が罪をむべきるとかのにぬるの鬼よ
引ぬしむつるくいちるくつくるくるる
メラビヤリ
ぬるのるくるくかくるる考へていうく
五
云

あるなさまり　佛のをくをなのぐ法華
獄　囚
経ろきよあくれ何のひのやつるぐこをてゆく
さいるむべきくまづいにぬるるよまをそ
井　塗
らのにぬるるけぐるてひるやくくれんとろる
程あるやとふる久方の雲井のあるよりやよ
ぐーとなのきこのる一百るるのつるくく
るるこいるる雀くるくんと耳をそるるるる
いるる近るぐくくとやあるるつれて八方の
棧威　道別
さきりをいのちるきるちきて天降あるまたら
かけまくるるるとき天照を大御神よるんあし

まりくる黄泉の大ゐんをはなつさきくさちあやしのおよ
やいつぐらまでおぢうしつつひ居るよ大御神
わたへるる御神なりしてのときいまくまらくまで宮人で宮
宮長い神の乃ミ御ゆく思ひくて一節るるやまじ魂
しるかるつのてが風をたふとびしふくもかきあ
そ言るもいひさそしてそよめづしきあぐれ人
をいでかくそくさるめさいるもんといはるとてまさ
宮長ま回ひてのさまいれい高天原汝いまをを
あませんとてあらめたらてふるて祐ふるしを
いでかのら街をふ遠ひこくまるんよいざ

本居翁著述書名ノ中ニ玉菜ト云カ多イテレハカリハ云ヒレナベレ

そそあたづさへまりくて天跡あ回ぐちくるのほくひ昇
祐ふ宮長が心の内いぐちうるうんうれとい
ねうら夏ちつくも思ひるぐうんうかくみて
るまのそるみておそつく八百万の神ちち成
神つくへつくまりてのうぐち宣言ちゆくそも豊芦原
の水穂の国神風の伊勢の御民本居宣長いまる神
ちちのみいそまれくるいさをくく功故九ようあ崇
めてそもよ神のくるみるよあくくあ萬玉好命たくへ稱
ぬべしとのくまりつよ祐神ちくくくりてくべるくせ葬
祐ふよ一柱ヒトバシラの神ちくくくなまりてをけびしくいく雁誌

[illegible]ちいとまれかくまれ我ひとりこの大御(オホミコト)云
うけひきてまもり宣長よこてい我くあのあさがき
ものとてひぐらぎ在給つり[illegible]神ろろうねぐ我を
給ひて又おそ給へいぐらの神るん大禍津(オホマガツ)日(ヒ)の神よ
まりくるる宣長ゐ向ひてのさまらをいまーぐ出ぬる
かくよ旨むものといつるうしとて作へゆすよ其の中に何ゐ
も向きことろうのまくるで神(コロレマ)るるのるるる
善人(ヨキヒト)もまぐり悪人(アシキヒト)も常ゆるるを当我あくび
ことあるぐちよらひきらあーらいるぐや大くらいべ(は)
よくとくゆくくもねのぐこてあくる心の人ち生あり

てこざいひを併ゆくとえゆくも万の山いさくあくあ景
ゆくもあう又天地の中るも其のくうゆるつけて
をりりのられるりあづくるくてそ(理)ろ
ぐうーくるをるべて我いのうねるるくのこ四つよ
いて我をいくくてきあるくいひいるる今四(年)ら
るるべきのくるくあくば面前まのあるつ委ぐくよくく
てくをあるくい宣ぐいいくきるるいそれたて
ちくくあせあくて物ているの(焔)ほくてくされたん
ぐ如えひぎいより打ぐぐりてくぶりくのくくぶ
くてゆくくを法いるくくとくひのむるたぐいきのくくこ大まぐ
願息

25397

国立国会図書館　タイトル『霊のゆくへ』 請求記号 121.25-M965t
ガラス使用

つるの神 大神神の御まへよりゆるしてやさせうあるを
かるねぎけ(侍)へとも とろ〜免さぞ(赤)〜けるく神の位
を野まへ(追放)ゆるしとく〜やらい(早)め
給ひねと きそこ給へ大神神もうべ(諾)るせ給ひて
まを(美)しのまを(随意)とのをまを(宣)いせど大福津日神(オホヒガフヒノカミ) 八十福津日神(ヤソマガフヒノカミ)
あひきこしてをく根のゑへと 神やこひこやらひ
給ひこそ宣長いこそぐせんこそぐるこそぐ
給ひてみも よこぐへとこそこそ天の底倍のるこそ(半)
すてたこそ かくるん思ひつげこそぐ
赤鬼のつれるこえ 地獄より福津ばこそうきあるる

齊藤齊藤述

かくて本居宣長いこるまのこそこそ神やこひこ
やられて 天のこそきこそこそこそこそひて
こそこそ 赤思ひつぐこそぐこそんぼそくかるこき
るこのこそこれば いこぐ給せん おそ(楷)まこそやこびきん
底つ下こそや 身をこぐこそこそこぐこそおこひ
めこそどさんこそこ命をこそこのめ(女々)こきこそさき
どこあれば こそこそこそこそこひこぐこそこそ天の八ちまこそ
いこそねこそこげこそこそ 足迫 底 丹塗 赤いかのこぬりの

隨云、下ノ仏ハ下ノ
ト云フベキナリ

酸漿

鬼のめく眼い赤くぐちゃりて鼻と背と長く尾をたらす

光 赤

てりあかりてこるをけらまへをれる宣長いきも

ムムム

定めらるゝ所にて天降神たちよりさせ給ひしふみ
を太占まのうらとへて宣長よいさをといあれどつみ罪
とのうごろ所ひ故よかくいたくいせ所ひく
さて近きころ顕うーむらうよゝの黄泉むよれしいまし汝が
を子とうなるなど和泉真國といひしものゝ今い
よゝの大神の御言イブヅミマクニ愛めなりて黄泉ヨミのもおひ
もてうとへて訴たつ管へとりて書讀命フミヨミノミコト
とぐれを所ひるまうとうこそいかの村白
真海が宣長をねゝのゝるもの物語論命伝へ
ゆていとゝあり面大祓ふとうしふゝるあげびて云く我うて

真國ハ和漢通達の博識なり

今義解の論ニて五ニ書かなけて宇ヒ
と春海負て歴と
あらはせうを贈
書と云三巻なり
宣春なぐ流布
せり

ものあり此はもとゝ宣長をあしまるのゝるもの
ゆゆなよ我とへ堪ぶて書のあげつらひのうくそ
いとゝ恥んせつれど恥を恥ても思ひあさがるれど
いける生の涯ぎうり恥てふるいとゝばやあるとんいそば
よゝぢへとやくむうとりてつゝるうんとくこよまく
まれ死おれこ此やつ奴とのゝるとてやまださる故や
真面のこのごろ病伏やゝてよゝちよまつ罷んも
うゝじそいと自れうくまれ五十鈴の大宮オホミヤ参マヰ
て大勅ミコトうけ所られいざとゝり早ゝ大御神のまち
所ふうとうとて猿田彦の大神い宣長を

年
ぬて天の八重雲 抑 五十鈴の川上 カハリベ あり 降
ぬ かくて 顕 ふる村田 海 あり
の風の病ひ ぬる やて 頓 枕 たる
常の 煩 さ 月 ふれ ねる
べ 酸 師 いさ
祈 禱 いの ぬ つく ぬれ 験
ぼ よ ぎ ん
る 悪 ち さ る き る 男 る
ん を の あ れ び 人 た
かて つ ひ い る ん る 縣 長 大 人 アガタヌシ

ざ る ま ぶ 我 年 ろ の ま び の 殺 も め で
降 べ き を 今 世 ま で ま び の 女 人 つ ぎ る
る せ て る 宣 長 る の る あ
ま る 世 ひ ろ で 我 を ぶ る る 年 老 る
の と の ま ひ て て 人 の 数 も ま ひ る ぶ
か て い 世 る る く ん も え る る き る ぶ る ん
る で る る 心 を る や ま て か く で よ る る り る
み ま る ぶ み 真 ま る や せ あ ら れ ん 大 人 の も 長 世 で
マリコ ウシ
今 い 高 き

霊行方一巻 享和二年秋 村田春海作

本居大先生存生の時ハ天下模範万代師ともいひて
へつゝしむ没後よりうてあるべきものなくのこる
ついでよ嘲呼〜てこれをあゝふせり

顕身悩一巻 享和三年春 齋藤彦麻呂作

霊行方の巻の意をうけて春海が病乃
床よ伝へるよ贈りしそふ兒島俊信
がたよりあてつゝくつゝくつゝ俊信ハ
備前国の民醫之宅文齋といひしを
右ハ彦麻呂いまゝ三十六歳にて豊熟強くて
思慮俊かりしかゝ

右者以丸山正彦氏秘蔵齋藤彦麻呂
自筆本謄寫者也

明治四十年三月中一日

秋甘

国立国会図書館　タイトル『霊のゆくへ』 請求記号 121.25-M965t
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『霊のゆくへ』 請求記号 121.25-M965t

ガラス使用